

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成25年度 技術情報第6号(普通期水稻の斑点米カメムシ類)について(送付)

普通期水稻の斑点米カメムシ類について、下記のとおりまとめましたので送付します。

## 平成25年度 技術情報第6号

- 1 対象病害虫 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, シラホシカメムシ, アカスジカスミカメ 等)
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域 普通期水稻地帯
  - (2) 発生時期 出穂期以降
  - (3) 発生量 やや多
- 4 予報の根拠
  - (1) 普通期水稻周辺の休耕田や畦畔などのイネ科雑草地ですくい取り調査を8月1~6日に行った結果、次のとおりであった。
    - ア カメムシ類の発生か所率は79.0%(平成(過去5か年の平均, 以下同じ):75.2%)と平成並みであった(第1表)。
    - イ 中程度以上の発生か所の割合は38.7%であった(第2表)。
    - ウ すくい取り調査(捕虫網20回振り)での平均捕獲虫数は18.3頭(平成:14.7頭)で、平成並みであった(第3表)。
    - エ カメムシ類の種類別発生量は、アカスジカスミカメが最も多く、次いでホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ, シラホシカメムシの順であった(第3表)。
- 5 防除上注意すべき事項
  - (1) カメムシによる斑点米の混入は米の検査等級の格下げにつながり、品質低下の主要な要因となる。
  - (2) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるため、出穂10日前頃までに畦畔雑草の草払いなどのほ場管理に努める。
  - (3) 出穂の早いほ場では、集中的に飛来する恐れがある。
  - (4) 航空防除等により広域一斉防除が行われた地域においても、乳熟期以降の発生に注意し、発生が多い場合は補完防除を行う。
  - (5) 一般防除地域においては穂揃期に防除を行い、その後の発生状況にも十分注意する。なお、穂揃期の防除後も発生が多い場合は、穂揃期の7~10日後に追加防除を行う。
  - (6) 防除は農薬の使用基準を遵守し、時期を失しないようにする。また、薬剤が周辺環境に飛散しないようにする。

(参考資料)

第1表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生状況(8月上旬)

調査年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	平年 <sup>2)</sup>
調査か所数	124	124	124	124	124	124	124
発生か所率(%) <sup>1)</sup>	66.1	81.5	75.8	68.5	83.9	79.0	75.2

1) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$

2) 平年は過去5年(2008~2012年)の平均値。

第2表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の地域別、発生程度別割合

(2013.8.1~6調査)

地域	調査か所数	発生か所率(%)	発生程度別割合(%)				
			甚	多	中	少	無
南薩	20	90.0	0	5.0	30.0	55.0	10.0
北薩平坦	48	75.0	10.4	6.3	25.0	33.3	25.0
北薩山間	44	77.3	9.1	11.4	9.1	47.7	22.7
大隅	12	83.3	33.3	25.0	8.3	16.7	16.7
県全体	124	83.9	10.5	9.7	18.5	40.3	21.0

発生程度別基準(捕虫網20回振りすくい取り虫数)

調査場所	発生程度				
	甚	多	中	少	無
雑草地等	61頭以上	31~60頭	11~30頭	1~10頭	0頭

第3表 普通期水稻出穂前の周辺イネ科雑草における斑点米カメムシ類の種類別、地域別発生状況

(2013.8.1~6調査)

地域	調査か所数	項目	クモハリ	ホリハリ	ミナミアオ	シラホシ	イネ	アカシ	合計	
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カミカミ		
南薩	20	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	0.2	1.9	0	0.2	1.4	5.4	9.0	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	10.0	50.0	0	5.0	15.0	55.0	90.0	
北薩平坦	48	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.6	2.1	0	1.3	0	12.8	17.7	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	20.8	45.8	0	35.4	0	66.7	75.0	
北薩山間	44	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.3	2.3	0	0.2	0	12.0	15.8	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	25.0	54.5	0	11.4	0	54.5	77.3	
大隅	12	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	3.2	2.5	0	0.7	0.6	38.6	45.5	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	25.0	41.7	0	33.3	8.3	83.3	83.3	
県全体	124	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.4	2.2	0	0.6	0.3	13.8	18.3	
		種別構成比(%) <sup>3)</sup>	7.8	11.9	0	3.5	1.5	75.3	100	
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	21.0	49.2	0	21.8	3.2	62.1	79.0	
		平年 <sup>4)</sup>	1.9	1.7	0.04	0.4	0.1	10.7	14.7	
		2012年	3.0	1.9	0.1	0.5	0.2	17.8	23.5	
		2011年	1.9	0.9	0.02	0.2	0.02	11.0	13.9	
		平均捕獲虫数	2010年	1.7	1.2	0.02	0.2	0.1	11.1	14.3
		2009年	2.5	1.8	0.1	0.5	0.05	8.5	13.3	
		2008年	0.6	2.6	0.0	0.5	0.0	5.0	8.7	

1) 平均捕獲虫数 =  $\frac{\text{総捕獲虫数}}{\text{調査か所数}}$

2) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$

3) 種別構成比(%) =  $\frac{\text{捕獲虫数}}{\text{総捕獲虫数}} \times 100$

4) 平年は過去5年(2008~2012年)の平均値。